長期ビジョン審議会 第４回総会　議事概要

１　日　時：令和3年12月24日（金）13：30～15：00
２　場　所：オンライン開催
３　参加者
委員：五百旗頭会長、庵逧委員、頴川委員、尾山委員、勝沼委員、笹嶋委員、
志智委員（幸田代理）、杉本委員、摺河委員、高品委員、谷口委員、
タマシ委員、築山委員、突々委員、那須委員、原委員、平田委員、葭岡委員、
吉富委員、井上委員、佐久間委員、大川委員、山本和樹委員、
藤本委員、木築委員、岸委員、山本益嗣委員（計27名）
（事務局）片山副知事、谷口政策創生部長、坂本参事（ビジョン担当）、城谷局長、
木南課長

４　議事
（1）開会
〇片山副知事
長期ビジョン審議会にご参加いただき感謝。兵庫県政が直面する最大の課題は新型コロナ対策。今のところ感染防止に一番有効とされているワクチン接種は、2回目までで県内では全人口の約75％、対象とされている12歳以上では約85％と、希望する人にはほぼ行き渡りつつある。ただ、警戒すべきオミクロン株について、大阪府・京都府で市中感染と考えられるケースが発生しており、年末年始を迎えて、基本的な感染防止策の徹底を改めて県民の皆様にお願いしなければならないと考えている。
8月1日に齋藤知事が就任した。私が副知事に就任した時に知事と話したのは、一つ目には、新型コロナ対策に全力を挙げなければならない、二つ目には、社会・経済を元に戻していかなければならない、三つ目には、ポストコロナの時期になると思われるが、兵庫県が抱える若者の流出にどう歯止めをかけるか、ということだった。
知事は、開放性を高める、誰も取り残さない、県民ボトムアップ型の県政を進め、「躍動する兵庫」を目指すと表明されている。この「躍動する兵庫」の中身を県民の皆様に具体的に示さなければならない。新ビジョンの策定がまさしくこれにあたる。私もいくつかの地域の皆様と意見交換し、地域の未来を担うのは地域の人々であることを痛感した。
県では現在、行財政運営方針の見直し案を作成し、県議会、審議会での審議、市町や各種団体への説明を行う一方で、齋藤県政最初の予算編成作業を進めているところであり、長らく皆様の協力を得て進めてきた新ビジョンの検討も大詰めを迎えている。県民の声を凝縮したビジョン案としてとりまとめているが、五百旗頭会長はじめ、委員の皆様から率直なご意見をいただいて、最後の仕上げに生かしていきたいと考えているのでどうぞよろしくお願いする。

○木南ビジョン課長
（委員の過半数の出席により会議が成立していることを報告）

（2）討議
○五百旗頭会長
今、片山副知事から話があった通り、新型コロナが収まるかと思ったら、大阪府・京都府での市中感染が出て、その対処に大変ご多忙だということである。新型コロナ対策、そして経済を元に戻すということとともに大事なのが、中長期的な兵庫県の活力をどういう方向に将来展開していくかということであり、これが我々にとっての課題である。この点について今日も皆様から積極的なご意見を頂ければと思っている。
今日の議題は新全県ビジョン本体案である。そのポイントを事務局から説明いただくことから始めたい。

○木南ビジョン課長
（資料説明）

○五百旗頭会長
ここから討議に入りたい。新全県ビジョン本体案について、様々な視点からご意見をいただきたい。最初に尾山委員。

○尾山委員
頂いた資料を全部読み、神戸商工会議所の中からもコメントをもらった。
まず、ビジョンの役割に「変化を生み出し、成長するビジョン」とある。この点が大変良いと商工会議所の中でも評価する声があった。
また、社会変化の潮流に「人口が減っても豊かな兵庫をつくる」とある。この点については、定住人口のみならず、例えばどこかに住んでいて神戸に来て仕事をするといった交流人口、もしくは県外にいても兵庫県の仕事に携わっているような関係人口も含めて、国内外から人が集まるビジョンにしてはどうかという意見があった。
「経済構造の変容」の中に「経済の非物質化」という耳慣れない言葉がある。この点について、人的投資や知的資産が大事だという視点を強調してはどうかという意見があった。すなわち言葉としては「産業の知識集約型」等の言葉にしてはどうか。
「価値観と行動の変化」について、30年後の2050年のあるべき姿として「ポストコロナ」という言葉は適切か。様々な感染症とも共生する、来るべき未知の感染症に対応し、共に生きていくという考え方が重要だとの意見があった。コロナ以外の感染症にも対応するという視点で記載してはどうか。
次に「策定の視点」だが、「競争よりも包摂」「効率よりも持続」とあるが、競争や効率は企業にとっては当たり前のことである。むしろ全体のトーンとして、生産性

の向上の視点をもう少し出すべきではないかと感じる。しかしながら「兵庫の未来は開放性をキーワードに描き、取り組む」というところには大変賛同する。

次に第２部のめざす姿だが、読んでいて少し違和感があったのは、「自立した経済が息づく社会」として「地域の中で価値が循環する自立的な経済圏が形成されています」とあるが、日本全体の中での県であり、市である。特に関西では関西広域という言葉があるし、経済界では万博のキャッチフレーズが「大阪、関西、ジャパン」となっているように、関西圏の中での大きな交流、連携の視点が重要だ。兵庫県の中だけで生きていくのは不可能だと思うので、今の表現は古いように思う。広域の中においての連携で兵庫県にメリットがあるという発想を持つべきだ。兵庫県という入れ物の中の話としてトーンが通っているので、それはそれでよいとも思うが、その上位概念として、関西圏の広域での交流の活性化というものが必要だろう。兵庫県の未来は開放性をキーワードに描き、取り組むと書いてあることからしても、兵庫県全体がそのエリアだけで成り立っていくという考え方は少し狭いと考える。

あと、めざす姿②の「NPO、スポーツクラブなどに人が集まる」、めざす姿③のダイバーシティ、めざす姿④の対話といった言葉などがよいと感じた。先日、貧困の中にいる子どもたちの学習の場に参加し、非常に表現しにくい環境の中にいる子どもたちと会った。ボランティアが40名くらいの子どもに勉強を教えている。めざす姿⑧の「地域に見守られながら安心して子育てができる社会」が本当に実現するならば、子どもの貧困も解消されるのではないかと強く感じた。

○笹嶋委員

前回の意見を丁寧に反映いただいて感謝する。前回私がコメントしたのはめざす姿④のみんなが学び続ける社会。「学び」というと学校でする勉強のようなイメージを持つ方が多いと思うので若干補足すると、私が言う「学び」は、生きていくための職業のスキルを身につけるということもイメージしている。今の年金制度は基本的に人々の平均寿命が80歳ぐらいの時代に設計されたものなので、その先のことまで十分考えられていない。今私の身の回りでも、高齢になっても働いている方、スキルを生かして仕事をしている方が多い。私がいる情報工学の分野でも、70代のプログラマー、80代の経営者などがおられる。そういう方たちは新しい情報環境に合わせて、学び直しをしたり、自力でスキルを磨いたりしている。年金で十分保障されない部分は、自分のスキルを生かして働いて賄える社会になっていく必要があると思う。その意味で、誰もが学びたいときに学べる、いつでも学び直しができる社会になっていってほしい。

アカデミックな学び、サイエンティフィックな学びも、知的な興味の探求という意味で良いことだが、私が言いたいのは、スキルについての学び、学び直しが重要ということで、今の案では、そのことがきちんと表現されている。さらに付け加えることができるのであれば、大学を地域の学びの拠点としてもっと活用すべきだと思う。実際今の大学では若い学生と社会人が一緒に学んでいて、互いにいろんな刺激を与え合

って学んでいる。若い方から高齢の方まで、みんなが大学を拠点に学び直しや、好きなことをする社会になればよいと思う。

○杉本委員

素晴らしいと思う点から述べたい。前回私は世界とつながるという視点をもっと取り入れた方がよいと言ったが、めざす姿③世界へ広がる交流に、そのことがしっかり書かれている。また、先端技術と伝統技術が共存するのが兵庫の特色だと言ったが、それもめざす姿⑩循環する地域経済にきちっと取り入れられており、非常によくなったと思う。

次は、もう少しインプルーブしてほしい点で、まず、めざす姿⑮暮らしの持続に貢献する産業。先ほど尾山委員が、2050年の大きな課題は「ポストコロナ」ではなく「未知の感染症への対応」ではないかと発言をされたが、私も同感だ。2030年の話としてならよいのだが、2050年となると少し違和感のある箇所がある。例えば、アクション例に「水素関連産業を基幹産業として育てよう。水素を中心に環境エネルギー産業の一大拠点を作ろう」とあるが、2030年、2035年までは水素でよいのだが、2050年で「水素を中心に環境エネルギー産業の一大拠点」と言われると、それはどうだろうかと疑問がわく。「水素を中心に」を取って単に「環境エネルギー産業の一大拠点」とした方がよいと思う。

また、第3部実現に向けての「先導プロジェクトの推進」について、是非とも2050年をめざした先導プロジェクトをいろいろと考えるようにしてほしい。今回のビジョンが少し弱いと思う点は、現状の問題点や、ここ10年ぐらいで解決すべき問題点に対する方法論を書かれているところが多いこと。2050年なので、もう少し長期を見据えた方法論を考える必要がある。

○五百旗頭会長

現在の課題、10年、15年の課題、さらに2050年をめざした課題の適切な振り分けが必要ではないかという大変重要なご指摘である。

○タマシ・カルメン委員

めざす姿③「世界に広がる交流」について、大学で外国人や留学生を担当する教員の立場から意見を述べたい。まとめられたビジョン案について批判はなく、逆にうれしく、ありがたく感じた。健康や病院、仕事から宗教まで、住んでいる外国人や留学生のことを考えた内容になっており、非常によい。日本人も留学など海外に行って様々な豊かな体験を経験することで、より充実した交流になっていくと思う。

一つだけ述べたいのは、ちょうど今週のことだが、兵庫県のレベルで何もできないことではあるが、オミクロン株の件で留学生の入国がまた禁止になってしまった。アメリカとイギリスの有名新聞に記事が出たように、日本にがっかりしたという声が国

際的に非常に大きい。一番若い学部生のレベルではなく、日本研究の専門家や大学院生など、日本に来る予定があった人たちは急にその予定がキャンセルになってしまった。文部科学省の奨学金を受けている研究者も２年連続で入国を断られたため、もう違う国で勉強しようという声が今どんどん大きくなっている。県立大学でも入国できない留学生がたくさんいて、ちょうど出発の前日に入国が禁止されて、もう留学をやめる、別のところにするといった声が増えている。

この件について県レベルでは今のところ何もできないが、私としては、兵庫の豊かな環境を一緒に作って、兵庫県、日本に多くの外国人が来るように頑張りたい。そのような展望を示す、このような素晴らしいビジョンがあることを、広報の形で外国人に発信できないか。今のところ入国はできないが、私たちは海外の方との交流に努力する県であるということを広報するなど、良いところをもう少し前に出した方が、批判ばかりにならずによいと思う。

〇五百旗頭会長

県立大学の理事長として、せっかくグローバルビジネスコースを作ったのに留学生が足止めされていることを大変痛ましく思っている。ただコロナのような緊急事態において、入国を甘くすることは難しい。初期に武漢で感染が広がったときに、日本は出入国を制限するのが遅れたために不用意に感染を広げてしまったということについて非常に批判を浴びた。オミクロン株は、重症化する人はそれほど多くはないとは言うものの、これを無防備に広げるのはよくない。オリンピック、パラリンピックのときに、多くの人が来日したが、検査やワクチンなど、非常に注意して日本全体に広がるのを止めた。そういう努力はやはり必要で、危機への対応としてはやらないといけない。そういう状況を越えた、もう大丈夫だ、という時の判断が大事だと思うが、そのときにはビジョンで書かれているような開放性、カルメン委員のような方が活躍する、兵庫らしい世界に開かれたあり方に戻したいと思う。その仕分けは大変難しいと思うが、ご意見を大事に受け止めたい。

〇平田委員

先ほど14時に本学の総合型選抜の合格発表があった。今年も全国から志願者が来てくれた。兵庫県からは20名の受験者のうち4名が合格した。次に多かったのは秋田県の3名。推薦入試は岩手県が一番多いという状況で、全国から来てくれている。全国の演劇部のトップクラスの学生たちが憧れる大学になっているかと思う。何を申し上げたいかというと、本学は観光とアートを学ぶ大学ではあるが、観光はただ単に来ていただくだけではなくて、観光に来ていただいた方たちが、その土地を好きになって帰っていただくことが大事だということである。そしてご本人が移住とかではなくても、自分の子どもを留学させたいとか、老後は住んでみたいというふうに思わせていくことが、とても大事だと思っている。

兵庫県は、観光の数値で言えば京都や大阪に負けるが、質を高めて、京都や大阪に行った方たちが兵庫にも寄って、兵庫を好きになって帰って行く、そういう状況をつくる観光政策として、私たちがやっている文化観光政策が必要なのではないかと思っている。その意味で、めざす姿③のそれぞれの項目は素晴らしいが、それをどう連動させていくか。観光で人を呼び込み、留学したくなるようにして、その留学生が日本に残りたくなる、働きたくなる、そういう兵庫県を作っていくということが重要だ。最終的には世界が憧れる兵庫県になることが重要なのではないかと思う。

こうした観光、文化政策は、中国の台頭するハードパワーに対して、特に日本が持っている最後のソフトパワーだと思う。人間の安全保障を進める上でも、兵庫県は特に観光政策と文化政策を結びつけながら、最終的に外国人の受入れに非常に積極的な県であるということを、広報、イメージづくりを通して国内外に向けて強く発信していくべきだ。そのためには人権意識も高めていかなければいけないし、LGBTQといったことに対する寛容性が世界の人々をひきつけるので、そうした部分でのメッセージの発信が今後非常に重要になっていくと思う。

○五百旗頭会長

入試の発表があったということだが、全体の志願者数、合格者数は何名だったのか。

○平田委員

総合型選抜は約5倍の倍率で23名合格した。推薦入試でも24名採ったが、いずれも北海道から沖縄まで万遍なく志願者がいて、合格している。特に北海道、東北が強い。

○五百旗頭会長

新しい、素晴らしい文化の拠点を豊岡に作っていただいて、我々兵庫県にとってもうれしいしことだが、世界にとっても大きな意味がある。日本の文化政策が不十分と言われる中で、平田委員のリーダーシップの下での尽力に大変期待している。世界が憧れる兵庫に近づけていただければと思う。

○山本益嗣委員

めざす姿⑥「わきたつ文化」と⑫「活動を支える確かな基盤」、⑭「分散して豊かに暮らす」について共感を持って拝読した。⑥「わきたつ文化」では、芸術文化を我々自身が生み出し、継承して、そして楽しむという考え方が大切だと感じている。⑫「活動を支える確かな基盤」では、今後多くの災害が予想されるなか、ハザードマップから居住地を選ぶ、安心できるところで皆が暮らすということを県として提示していくことが大事だと思う。

⑭「分散して豊かに暮らす」に関しては、これまでも意見してきたが繰り返し申しあげたい。淡路島は今「パソナ」「コロナ」、そして先日放送された「ブラタモリ」

の3つの効果で移住希望者が増えている。高度経済成長、バブルに続く第三のブームだとも言われる。賃貸物件は払底して、塩漬けになっていた別荘地に見学者が押し寄せている。農地を宅地転用して分譲したり、アパートを建てたりする動きも活発化している。「西浦」と言って、寒くて人があまり住まなかった地域が、今「西海岸」と呼ばれ、レストランやカフェがどんどん建っている。ただ一方で、古くからの地元住民は、やがてこのブームが去って、売れ残った別荘地だけが残るのではないかと危惧している。現在の淡路島の人口は約12万6千人であるが、兵庫県全体も淡路もどんどん人が減っている。2050年という長期的な将来を展望するにあたっては、住みやすいところにまとまって住んでもらうコンパクトシティの方向性を考える必要がある。その点が本体案にはあまり入っていなかったことが残念である。

最後に、基本事項で示された「新しい価値観・行動様式を根付かせる」ということは非常に大事だ。少子高齢化などいろんな潮流のなかで、「所有から利用へ」「固定から流動へ」といった価値観の変化を我々年配者にも丁寧に説明して、子や孫のために一緒になってビジョンの実現をめざしていくという取組をやっていただきたい。

○五百旗頭会長

淡路は西浦地区を中心に、うらやましいくらいの活況を呈しているが、持続性については疑念もあるとのご意見だった。住みよいところに計画的に展開している訳ではなく、一つの社会的ブームとして広がっているのではないかというご指摘であり、今後どういった姿が望ましいのか、後ほど県にも伺ってみたい。

○吉富委員

前回発言した多様性を大切にする視点を、めざす姿③「世界へ広がる交流」や⑦「みんなが生きやすい地域」など、いろんな所に散りばめていただいた。外国ルーツの人々が地域の産業を支えているという点についても、別冊データ集で触れられると聞いている。全体としてよくまとまっている。

その上で付け加えると、女性の社会進出に関する記載が少ない点が気になる。日本でも女性が強くなったと言われる一方で、社会進出が遅れている事実を意識する必要がある。依然として役職者は男性ばかりであり、本体案にも女性の活躍に関する記載が出ていない。例えばめざす姿①「自由になる働き方」に女性の働く場、女性の活躍など、女性についてのキーワードが入ってほしいと思った。

それと、ビジョンの基本的な性格にも、実現に向けての基本姿勢の「足元からコツコツと一つずつ課題解決を」という部分にも、ビジョンはあくまで県民一人ひとりが自分で行動をするためのものだということが謳われているが、こうした類いのことは行政頼みになりがちなので、あえてもう少し強調する意味で、基本的な性格の「県民が主役になり、地域から取り組む」に「主体的に」という言葉を入れてもよいのではないか。

○五百旗頭会長

ここで、今まで出たご意見について、片山副知事からコメントいただきたい。

○片山副知事

一番大事なのは、若者の人口が流出していることについて、将来にわたってどう対応していくのか、明確なビジョンを示すことではないかと感じた。

海外から兵庫県に進出する企業が今年も少し増えた。単に一つの要素だけではなく、住みよさや、教育の環境などいろんな要素が大切になってくるので、多様性のある地域であることを強調していかないといけない。

県はPRが下手なのではないかと今日もお叱りを受けたと思う。どこに行っても言われるが、県庁職員とともに工夫してやっていきたい。

淡路の話が出た。淡路は今ブームかもしれないが、他の地域の人から、淡路はうらやましいと聞く。この流れを捉えなければいけない。県庁も協力していきたい。

女性の社会進出は重要な課題で、私が副知事になったとき、二人目の副知事は女性ではなかったのかと言われた。長期的な取組にはなるが、県でも女性の登用をさらに進める方向で頑張っていきたい。

長期ビジョンの話をしている中で短期的な話になるが、平田委員の話を聞いて少し安心した。コロナ対策の中で、県民に県内旅行をしていただこうと、一人一泊5千円の助成をしている。これを1月1日から隣接府県まで広げようということで、大阪、京都、岡山、鳥取、徳島まで利用可能になる。先ほど平田委員が、数値では大阪、京都に負けるが、質は兵庫もいいぞ、と言われたので、頑張りたい。

これまでいただいたいろいろな意見について、事務局に検討させたい。

○五百旗頭会長

世界に開かれた交流に関するご意見が多かったが、今、県では行財政改革の見直しの中で、これまで兵庫県が力を入れてきた国際交流に関して、西オーストラリア州とブラジルの事務所の撤収を検討しているが、委員からはもっと国際交流を重視すべきという意見が多い。県としては選択的に撤収するということをお考えなのか。

○片山副知事

県は５つの海外事務所を持っている。都道府県で５つも海外事務所を持っているところは少なく、今、西オーストラリアとブラジルは見直すことにしている。事務所を置くことはやめるとしても、現地駐在の民間企業の方などに頼んで連携はしていく方向で見直そうとしている。国際交流の芽は、この兵庫では活かしていかなければならない。今日も話を聞いたので、そういう方向で検討していきたい。

○五百旗頭会長

国際交流についてネガティブな姿勢に転ずるということではまったくないというご説明だった。その他の方々、発言をご希望の方はいらっしゃるか。

○勝沼委員

これまでの発言と重複するが、申し上げておきたいことがいくつかある。

まず今回の案を拝見して、前回会議の意見をきめ細かくできる限り反映されたことは評価するが、その結果として、表現の重複や、この項目はこの柱なのかということがわかりにくく、位置付けが整理しきれていないのではないかという箇所がある。

例えば、５つのめざす社会の一番目に「自分らしく生きられる社会」とあるが、三番目の「誰も取り残されない社会」のめざす姿⑦にも「誰もが自分らしく生きられる社会」という表現がある。その辺りがどう区別されているのか。同じことを言っているのではないとは思うが、その辺が少しわかりにくいので、整理が必要だ。

第２部めざす姿の「自分らしく生きられる社会」が、日本では一番取組が進んでいない分野だと思う。要するに多様性や個人の尊重といった価値観を重視する社会への転換を掲げているが、ここがなかなか進まない分野だからこそ、これからの開かれた、活力のある社会を実現するためには最も重要な部分で、ここが最初に出てくることは良いことだと思う。

ただ、こういう問題意識からすると、ビジョン全体に「一人ひとり」や「みんな」「誰もが」というような大括りの主語が多く、また「属性を越えた」や「性別、年齢、障害の有無、国籍などに関わらず」といった対象の設定が非常に大きい書き方が目立つ。いずれも間違っておらず、包摂という概念を意識した表現だと思うが、これを多用しすぎることによって、かえって、ただの枕詞になってしまわないか。言葉はそうやって意味をなくしていくところもあるので、文章として残す場合には、もっと具体的な言い換えができる部分はした方がよいと思う。ビジョンの対象や担い手、主体が誰なのかということが曖昧にならないように、誰が何をどう変えようとするのかということが伝わる表現ができないか。

吉富委員から話があった女性の問題に関して言うと、「誰もが自分らしく生きられる社会」が最初の大目標としてあるのは構わないが、それを項目化していく時に、例えば、「女性が企業の社長や職場の管理職や地域や政治分野でのリーダーとして当たり前に活躍している社会」と言った方がイメージしやすいのではないか。そういう観点からビジョンで取り上げている属性について読み返してみると、大人、子ども、障害のある人、外国人等の記述は出てくるが、女性に特化した記述がどこを見ても見当たらないのはなぜなのだろうと不思議に思った。

兵庫県は、データで見てもそれほど女性の活躍に関して進んでいるわけではない。有業率は長年全国最低レベルにあり、それがなぜなのか分析できておらず、現状として、若い世代の女性がどんどん県外に出ていってしまうという問題は深刻である。ここを転換して、女性が住みやすい社会を実現できるかどうかということは、地域の将

来像を大きく左右する要素ではないか。明確に「女性が自分らしく生きられる社会」ということを掲げている自治体もある中で、このビジョンでは埋もれてしまうのではないかと心配している。同じことは若者についても言える。進学、就職で転出した若者が帰ってきたくなるような地域を目指さなければならないと思うが、特に今の若者は多様性や選択の自由、ジェンダー平等といった個人の選択が尊重されているかどうかということに非常に敏感である。例えば、夫婦別姓を自由に選べないのか、同性婚がなぜ認められないのかといった、今の私たちの世代からすると、常識を容易に超えてくるところがある。これが30年後の若者であれば、さらにその傾向、価値観の変化は当たり前になっているのではないか。女性や若者が生きづらさや息苦しさを持っているとすれば、そこから解放するという視点が、長く続いている男性中心の社会の仕組み、規範から、そこで生きてきた男性たちをも解き放ち、性的マイノリティ、高齢者、障害のある方などにも暮らしやすい社会につながる。これがキーワードとされている「開放性」にも沿った考え方になるのではないか。めざす社会の５本柱、15もあるめざす姿の中に「女性がのびやかに生きられる社会」「若者の希望を後押しする社会」など、大括りでいうと「個人の自由な選択を支える社会」といった項目が一つでもあるだけで、ビジョンの訴求力が強くなって、具体的なイメージを持ってもらえるようになるのではないか。

最後に、書かれているアクション例が細かく、こういうことをやってみようということを書かれていて、これは良いと思うが、ここには県が直接実現できることはほとんどない。基本事項のビジョンの役割には、県民が主役になり地域から取り組むビジョンと書かれているが、それとセットで、新たな価値観を生み出そうとする県民のチャレンジを県は全力でサポートするといった県の責務も明記してはどうか。

〇五百旗頭会長

前回の意見を反映したのはよいが、修正する中で重複がでたり、齟齬が出たりということがあるという指摘から始まり、内容的に、誰もが自分らしく生きられるということはよいが、女性について、それを主語にした言葉がない、女性がのびやかに生きられる社会という言葉がない、それもしかしまだ一般的な言い方で、それはどういうことなのかということについて、また事務局から勝沼委員にアイデアを伺うかと思う。県がやれることがそのうちどれだけあるのかということも重要なご指摘である。

〇突々委員

前回発言したことを踏まえて「美しく豊かな海で持続性の高い漁業が営まれる」と書き直していただき感謝する。ただ、本文で「海の美しさと豊かさを両立しながら」というところはよいのだが、それ自体が目的になっているように感じるので、考え直していただきたい。私も水産課と相談して事務局に中身の提案をしたい。

また、めざす姿⑪のタイトル「進化する御食国」という言葉がピンとこない。県民

が読んだ時にタイトルが一次産業を中心とする項目に合っていないように感じる。タイトルは、もっとわかりやすいものがよいのではないか。

○井上委員

社会変化の潮流に「人的資本」の記載があるが、この言葉が重要であることがビジョン全体の中で脈打っているように感じる。30年後は個人の知力や能力、想像力が今よりも向上していてほしいし、向上させたい。

そのためには教育が必須だと思われる。めざす姿④「みんなが学び続ける社会」に関して笹嶋委員がスキルの向上の発言をされて、その通りだと感じた。「知らないことを知ること」が「学ぶ」ことであり、知っていることを更に伸ばして、一人前の専門家にすると言う意味の「育成」も「学び」と共に必要である。しかし、そのことが意味として伝わりにくいようにも思うので、「学ぶ」と共に「育成」という手段についても強調できれば、よりわかりやすくなるのではないか。

○摺河委員

コロナ禍が収束すれば世界の人が一斉に動き出すだろう。ポストコロナ社会において私学の中高では海外人材を取り込むため、海外人材育成の仕組みを考えている。

提案だが、公立には専門学科が多くあるので、その中で海外の留学生を受け入れる仕組みを作ってはどうか。例えば、香住高校の水産科や佐用高校、上郡高校や但馬農業高校の農業・畜産学科などに海外人材育成の仕組みを導入すれば、地域の活性化にも役立つだろう。高等教育の無償化の動きもあり、将来はそういった人が更に高次な視点を持って地域に貢献することができる、そういった枠組みも考えられるのではないか。他に、伝統技術を継承する学科を立ち上げるなど、五国の地場産業と連携した地域産業振興の形も考えられる。私学ではできない公立の強みを発揮し、公教育を公私で支えられる枠組みができればと思う。

○那須委員

吉富委員からも意見があった女性の社会進出に絡むが、めざす姿⑧「安心して子育てできる社会」に関して意見を述べたい。「子育て・教育を家族任せにせず」と考え方は書かれているが、働く女性の活躍が、なかなか進展していかない。男性の育児参加が、日本は欧米と比べると非常に遅れており、日本のジェンダーギャップ指数は非常に低い。社会全体もそうだが、まずは男性が子育てに参加しやすい環境を作っていくことが重要。この点は労働運動を進めて行くに当たってもキーワードであり、ビジョンの中にも男性の育児参加を含めた環境づくりの記載があればよいと思う。

○五百旗頭会長

これまでの発言について、片山副知事からコメントをいただきたい。

○片山副知事

兵庫県は県土が広く、漁業だけでなく農業・林業もある。知事は、守るべきものは守り、変えるべきものは変えると言われている。守るべきものは何かと考えたとき、兵庫五国の多様性とそれに対する施策は守っていきたいと言われている。都会だけでなく、第一次産業が盛んな地域を作っていくということを留意したい。

兵庫県には多彩な私学がある。まさしく多様性であり、公立と私立が一緒になって、公教育を支える形は尊重していきたい。

子育てに男性も参加しないといけない。その視点で長期の展望を持つ必要がある。今、直面している問題は、若者、特に女性の県外転出だ。別の会合で「大学はどこに行ってもよいから、就職するときに呼び戻す施策を頑張る」と言ったら、出席されていた方から「東京の大学に行ったらもう兵庫県には帰ってこない。副知事の考え方は間違っている」と言われた。兵庫県に暮らし、子育てをしていくことがいかに素晴らしいかということを示すビジョン作りと、具体の施策を考えていくことが大切だ。

○五百旗頭会長

高校まではよい学校があるが、大学で県外に出てしまったら、兵庫県に戻ってこない。今日は兵庫県のコミュニティとしての開放性や多様性、包摂性、そうしたことに関して多くの意見があったが、戻って来てもらうためには仕事の場、機会が必要であり、魅力ある、競争力のある、先端的な企業がないと多くの人が兵庫県に戻れない。その点について、尾山委員、兵庫県の産業は今後どこに力を入れ、頑張るべきか、ご意見をいただきたい。

○尾山委員

私の周りでは兵庫県に戻ってきている人が多くいるので、まったく戻ってこないわけではない。ただ、多くは家業を継ぐために戻ってきている。人間に備わった闘争心や上昇志向、年収についても、東京は生活費も高いが、心とお金を満たすものがある。また、音楽、観劇、ナイトエコノミーを知ってしまうと帰ってこないと言う人もいる。それらを踏まえると、総合的文化の差があると思う。

会長に意見を求められた兵庫の産業について、ビジョンの中でも示されているが、めざす姿⑮に「環境エネルギー産業と健康医療産業の拠点になる」とあるように、エネルギー、発電手段を一大研究課題にしたら面白いのではないかと思う。

それと産業で期待するのはITだ。福岡市が九州経済連合会と協力し、東京の大手IT会社と密に連絡を取り合い誘致しようとしているが、それが一つのモデルになるのではないか。私もベンチャー企業を立ち上げ、スタートアップ企業に投資をしているが、投資先がどうしても東京の企業になってしまう。やはりマンツーマンで会って、がやがや話すということが重要なので、現在、東京の渋谷がITのメッカになっている。時

間はかかると思うが、西日本のメッカを作れないだろうか。

兵庫県の産業の方向は、他の地域が弱いところの工業系で、大学とタイアップして進める分野ということになろうかと思う。創薬は大阪が強いので、今やっている医療の横展開、そしてエネルギー、特に発電手段、そしてIT、この３つが30年後を考えてもまだまだ伸びしろがある。これらの分野の日本のメッカ、もしくは西日本のメッカを作るという方向性がわかりやすいと思う。

○五百旗頭会長

結論的に医療、エネルギー、ITに力を入れることが30年後を考えると重要だというご指摘だった。ベンチャー投資は、国内では東京一極集中ということだが、世界的に見れば日本以外のアメリカや中国に圧倒的な力がある。とはいえ、芽を出すために力を入れて育てる姿勢を持っていただきたい。

音楽、観劇、文化の魅力の話もあった。確かに東京に圧倒的に集積しているが、兵庫にも見るべきものはある。西宮の芸術文化センターがあるし、豊岡では平田委員が頑張っている。産業のみならず、文化の方面、そしてよきコミュニティということを合わせて３本柱として展開していくことが必要ではないかと感じた。

まだご意見があろうかと思う。事務局に意見を寄せていただければと思う。

今後、最終案をとりまとめ、知事に答申しないといけない。私と事務局でとりまとめさせていただいてよろしいか。

（異議なしの声）

ご一任いただいたので、精一杯みなさんの意見を活かすようまとめをしたい。

○木南ビジョン課長

熱心なご討議に感謝申し上げる。

会長から話があったように、審議会から県へ答申いただく最終案の取りまとめについては、会長とご相談しながら、進めさせていただく。

（4）閉会

○片山副知事

本日は貴重なご意見をいただき感謝申し上げる。長期的に育成すべき産業分野として、医療、エネルギー、ITとの話があった。さっそく産業労働部長に指示したい。だが、話を聞いていると、なかなか東京には勝てないという思いがした。東京一極にどう対応するのがよいのか、これも県の一つの課題だ。

先ほども話があったが、新全県ビジョンについて、最終案をとりまとめ、躍動する兵庫の一つの見えるべき姿として示していきたい。

（以上）